

原著：秋田大学医短紀要 7：117-121, 1999.

学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて (1)
—入学時の検討—

Comparative Study of the Image of Nursing in Students' Mind
among Various Educational Institutions (1)
: An Investigation immediatery after Entrance into Nursing school

石井 範子* 平元 泉* 平 むつ子**
小林 明子*** 堀井 雅美****

Noriko ISHI* Izumi HIRAMOTO* Mutsuko TAIRA**
Akiko KOBAYASHI*** Masami HORII****

Ⅰ. はじめに

看護教育は、大学・短期大学・専修学校などいくつかの種類教育機関で行われている。従来から看護学専攻の大学生や短期大学生は専修学校生に比べ、看護職志向が明確でない等の報告¹⁾²⁾があるが、最近(1990年代)の研究はあまり見当たらない。そこで、我々は短大および専修学校3年課程・2年課程の看護学生の看護に対する意識や態度を学校種別に比較検討してきた。今回は、本格的な看護教育を受ける前の短大生・3年課程の専修学校生及び准看護教育を受けた2年課程の専修学校生の入学直後の看護に対するイメージを調査し、学校種別の比較検討を行った。

尚、“看護に対するイメージ”とは、ここでは、看護に対するイメージ、及び看護職者に対するイメージの双方を意味する語として用いることとする。

Ⅱ. 研究方法

1. 対象：A大学医療技術短期大学部看護学科1年生84名、B看護学院3年課程1年生55名、C看護学院2年課程1年生45名である(以下、短大生・専修3年・専修2年とする)。2. 調査方法：20尺度を設定したSD法によるイメージ測定を、入学後間もない4月初旬に一斉回答方式により実施した。3. 分析方法：①イメージ測定は各尺度で好意度が高いほど評定値が小

秋田大学医療技術短期大学部

*看護学科

**秋田県立衛生看護学院

***中通高等看護学院

****秋田県福祉保健部医務薬事課

Key Words：看護イメージ

看護学生

学校の種類

(18) 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて (1) - 入学時の検討 -

さくなるように7段階で評定し、一元配置分散分析・多重比較により、学校種別の平均評定値を比較した。

②20尺度についてバリマックス法による因子分析を行い、因子を抽出し命名した。

③因子得点の平均値について、一元配置分散分

析・多重比較により学校種別の比較を行なった。

III. 結 果

1. 看護に対するイメージの学校種別の比較 (図1)

イメージプロフィールは「自由な」以外で、

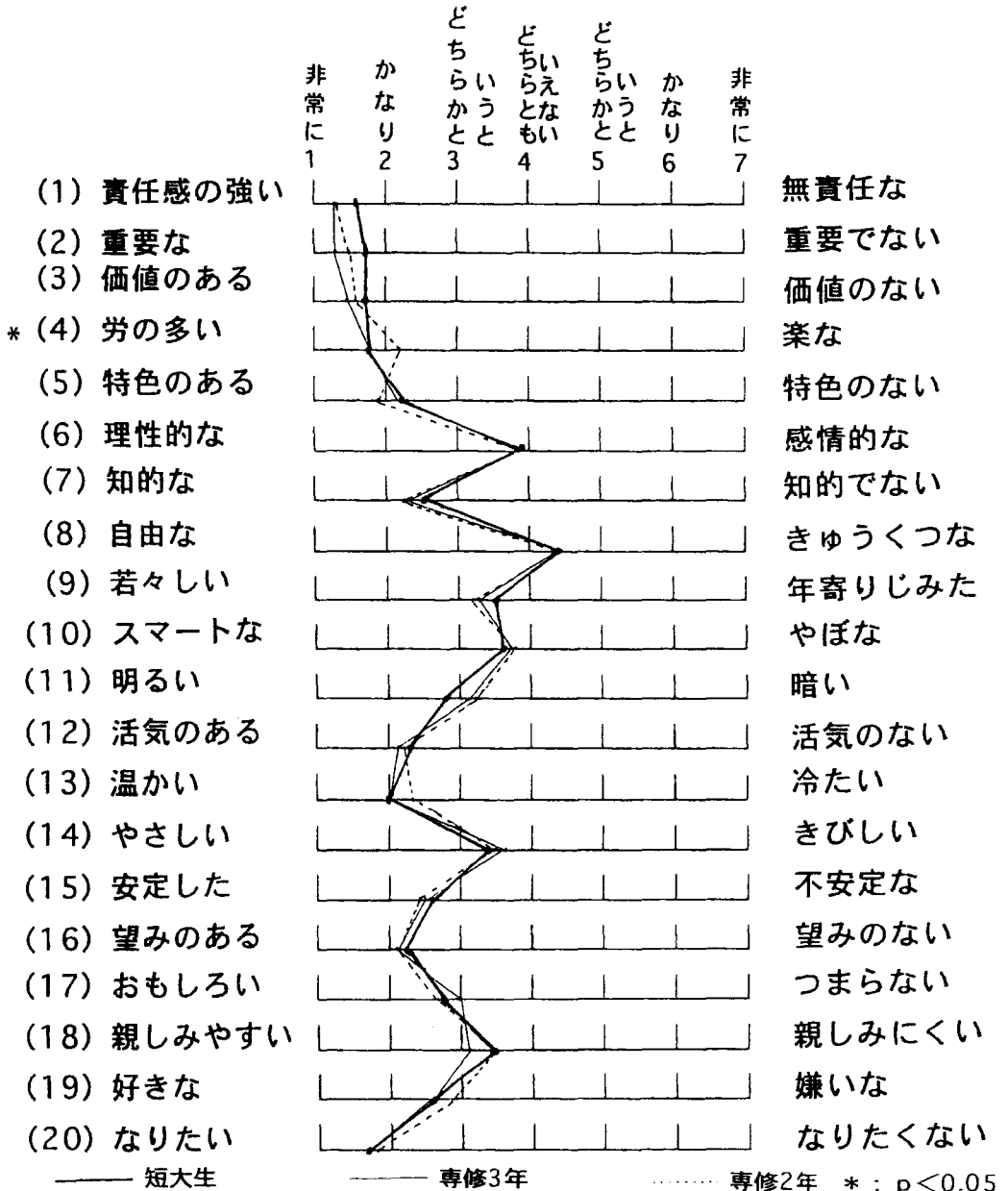


図1 看護イメージプロフィール

表1 看護に対するイメージの因子構造

因 子 項 目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
	看護の 重要性	看護の 労働性	看護職の 特性	看護婦の 親和性	看護婦の 快活性	看護就労 希望
責任感のある 重要な	0.832	-0.016	-0.186	-0.009	0.080	-0.025
責任感のない 重要でない	0.689	-0.024	-0.263	0.015	-0.048	-0.056
労の多い	0.021	-0.850	-0.030	0.005	0.045	0.104
自由な	-0.015	0.332	0.179	0.142	0.250	-0.052
温かい	0.119	0.037	-0.712	0.275	-0.018	-0.064
望みのある	0.187	0.163	-0.692	-0.065	0.223	-0.113
特色のある	0.137	-0.050	-0.562	-0.154	0.225	-0.083
価値のある	0.136	-0.063	-0.528	-0.116	0.057	-0.240
知的な	0.158	-0.017	-0.501	0.191	0.157	-0.115
スマートな	-0.013	0.217	-0.319	0.104	0.083	-0.168
やさしい	0.016	0.040	-0.192	0.483	0.106	0.016
親しみやすい	0.115	0.168	-0.121	0.444	0.182	-0.240
理性的な	-0.037	0.004	0.098	0.391	-0.038	0.010
若々しい	0.084	-0.027	0.020	0.113	0.595	-0.232
活気のある	0.031	0.144	-0.201	-0.033	0.521	-0.280
明るい	-0.072	0.178	-0.250	-0.244	0.444	-0.107
好きな	0.105	0.129	-0.164	0.237	0.142	-0.658
面白い	-0.050	0.110	-0.181	-0.176	0.184	-0.646
なりたい	0.135	0.025	-0.466	0.173	0.100	-0.423
寄 与 率 (%)	11.1	9.3	20.2	7.9	10.2	11.4
累 積 寄 与 率 (%)	11.1	20.4	40.6	48.5	58.7	70.1

3校とも全体的に左寄りの好意的イメージであった。「労が多い」の1項目で有意差がみられ、専修2年が他の2校より平均評定値が高かった ($P < 0.05$)。その他の19項目では3校間に有意な差はみられなかった。

2. 看護に対するイメージの因子構造と因子得点の比較

累積寄与率70.1%で6因子が抽出され、第1因子は「責任感のある・重要な」の2項目からなる『看護の重要性』、第2因子は「労の多い・自由な」の2項目からなる『看護の労働性』、第3因子は「望みのある・特色のある」などの6項目からなる『看護の特性』、第4因子は「やさしい・親しみやすい」などの3項目からなる『看護婦の親和性』、第5因子は「若々しい・活気のある」などの3項目からなる『看護婦の活動性』、第6因子は「好きな・なりたい」などの3項目からなる『看護就労希望』であった(表1)。因子得点を比較すると、第1因子の『看護の重要性』で短大生が専修3年より有意に高得点であったが ($P < 0.05$)、その他の因子において有意な差はみられなかった(表2)。

IV. 考 察

我々が、今回と同じ学校の卒業時の学生に対して実施した看護に対するイメージの調査³⁾では、短大生が最も好意度が高く、専修2年が最も好意度の低いプロフィールを示していた。また、因子得点の比較でも、『看護婦の性格因子』で短大生が他の2校より低く、『看護婦の外観因子』で専修3年が短大生より高く、『看護の価値因子』で専修2年が他の2校より高く、各校の特徴がみられた。今回調査した入学時の学生においては、とくに看護の学習やなんらかの看護体験を持つ専修2年は他の2校と異なったイメージを抱いているものと予測していたが、他より「労が多い」とみていないこと以外は、ほぼ同様のイメージであった。

看護は一般に重労働な仕事とイメージされがちであるが、専修2年は入学前の准看護教育や何らかの経験において、現実を直視する機会をもっており、看護教育を受けていない短大生や専修3年に比べ、「労が多い」とのみかたが緩やかになったのではないかと考えられる。

入学までの背景がほぼ同じである短大生と専

表2 因子得点の比較

() : F値

因子 学校	F1 看護の重要性 因子	F2 看護の労働性 因子	F3 看護職の特性 因子	F4 看護婦の親和性 因子	F5 看護婦の快活性 因子	F6 看護就労希望 因子
短大生	0.231 (3.611)*	-0.024	0.014	-0.062	0.030	-0.048
専修3年	-0.254	0.083	-0.009	-0.061	-0.002	0.053
専修2年	-0.127	-0.064	0.041	0.196	-0.055	0.031

* : $p < 0.05$

修3年の学生では、短大生の方が『看護の重要性因子』で因子得点が高く、「責任感のある重要な仕事である」とみており、従来の調査とは異なる結果である。これまでに報告された短大生と専修学校3年課程の学生の看護に対するイメージの調査⁴⁾⁵⁾では、専修学校生の方が看護婦に対して好意的・肯定的イメージを持っているという結果であった。このことについて、社会的に重要で、意義を見いだせる職業であるから、あえて学歴にこだわらず、看護職をめざすという明確さが、イメージ差として表出されたのではないかと解釈されている。これらの調査が行われた1970年代後半から1980年代前半と、疾病構造の変化・医療の高度化・少子高齢化を背景に看護職の高学歴化をめざしている現代とでは、学生をとりまく状況が大きく変化している。このような社会的変化の中で高等学校における進路指導のあり方や学生の看護職志向の内容にも変化が生じているものと推測される。

卒業時の調査⁶⁾では、イメージの違いや各校の特徴がみられたにもかかわらず、入学時の学生のイメージには、学校の種類による差がほとんどないことが明らかになった。真鍋ら⁷⁾が大学生と短大生に実施した看護イメージの調査でも、入学時では差はなかったが、卒業時で大学生の方が好イメージであり、一般教養の時間数やその幅の広さの違いなど、カリキュラムの違いが看護イメージに影響しているのではないかと考えられている。短大と専修学校においても、カリキュラムに若干の違いがあることから、今後、カリキュラム等の質的な面での比較や縦断的な調査なども加えて、各校における教育のあり方を検討する必要があることが示唆されたといえる。

V. 結 論

入学時の看護学生の看護に対するイメージについて、短大・専修学校3年課程・専修学校2年課程の学校種別に比較した結果、以下の結論を得た。

1. イメージプロフィールは、全体的に好イメージ寄りであり、専修2年がより「労が多い」とみていないこと以外は、ほぼ同様であった。
2. 因子分析で6因子が抽出され、それらは『看護の重要性因子』、『看護の労働性因子』、『看護の特性因子』、『看護婦の親和性因子』、『看護婦の快活性因子』、『看護就労希望因子』であった。
3. 因子得点の平均値は、短大生が専修3年より『看護の重要性因子』で有意に高かった。

VI. おわりに

近年の看護学生の看護に対するイメージは、専修学校生の方が短大生より好意的・肯定的であると言う従来の諸報告とは異なった様相を呈している。今後、大学生も対象に加えた調査を実施し、学校の種類別に学生の看護に対する意識や態度について検討していきたい。

引用文献

- 1) 西幸子, 島村忠義, 村上美好他: 日本の看護学生と教育像(その1) - 全国の看護学校の種別による比較を中心として -, 第11回日本看護学会集録(看護教育分科会): 12-19. 1980.
- 2) 石塚百合子, 白佐俊憲, 木村泰子, 水谷一郎: 看護婦イメージの研究, 看護教育, 23(7): 446-453. 1982.
- 3) 石井範子, 平元泉, 志賀令明, 堀井雅美他: 看護学生の卒業時の看護に対するイメージについて - 学生の学校種別の比較 -, 秋田大学医療技術短期大学部紀要 6: 77-85. 1998.
- 4) 前掲1) と同じ
- 5) 前掲2) と同じ
- 6) 前掲3) と同じ
- 7) 真鍋淳子, 野尻雅美, 中野正孝, 桂敏樹他: 看護学生の看護婦イメージの研究 - 大学生と短大生の比較 -, 看護教育, 35(6): 427-433. 1994.